Microsoft System Center Virtual Machine Manager 用 Cisco UCS アドイン ユーザ ガイド リリース 1.0

初版：2013 年 08 月 02 日

最終更新：2014 年 05 月 09 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

Text Part Number: OL-29978-02-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

概要 1

Cisco UCS SCVMM アドインについて 1

システム要件 2

サポートされる Cisco UCS Manager リリース 2

UCS Cisco アドインのインストール 3

Cisco UCS アドインのインストール 3

UCS グループの追加と削除 5

UCS グループの追加 5

UCS グループの削除 6

UCS ドメインの追加と削除 7

UCS ドメインの追加 7

UCS ドメインの削除 8

アドインを使用した情報の表示 9

ハイパーバイザ ホスト ビューへのサーバの詳細の表示 9

UCS ブレード サーバの詳細の表示 11

UCS ラックマウント サーバの詳細の表示 12

サービス プロファイルの詳細の表示 14

サービス プロファイル テンプレートの詳細の表示 15

アドインを使用したアクションの実行 17

ハイパーバイザ ホスト ビューからのアクションの実行 17

サービス プロファイルの関連解除 17

電源状態の設定 18

KVM コンソールの起動 18

LED ロケータの電源投入 18

UCS サーバ ビューからのアクションの実行 19

サービス プロファイルの関連付け 19

サービス プロファイルの関連解除 20

電源状態の設定 20
KVM コンソールの起動 21
LED ロケータのオン/オフ 22
サービス プロファイル ビューからのアクションの実行 23
電源状態の設定 23
KVM コンソールの起動 23
サービス プロファイルの名前の変更 24
サービス プロファイルのクローンの作成 24
サービス プロファイルの関連解除 25
サービス プロファイル テンプレート ビューからのアクションの実行 25
テンプレートからのサービス プロファイルの作成 25
サービス プロファイル テンプレートのクローンの作成 26
Cisco UCS アドインの設定とトラブルシューティング 27
Cisco UCS アドイン設定オプションの使用 27
トラブルシューティング 28
一般的なエラーと解決方法 28

第 1 章

概要

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco UCS SCVMM アドインについて，1 ページ
- システム要件，2 ページ
- サポートされる Cisco UCS Manager リリース，2 ページ

Cisco UCS SCVMM アドインについて

Cisco UCS Add-in for SCVMM は、Virtual Machine Manager のユーザ インターフェイスを拡張します。 拡張インターフェイスにより、UCS サーバ（ブレード サーバおよびラック マウント サーバ）を管理することができます。 拡張を使用して次のタスクが実行可能です。

- インストールされているブレードまたはラック サーバによるハイパーバイザ ホストのマッピング
- UCS ドメインの追加また削除
- サーバの詳細の表示
- サーバのファームウェアの詳細の表示
- 障害情報の表示
- サービス プロファイルとサービス プロファイル テンプレートの詳細の表示
- ホスト（サーバ）KVM コンソールの起動
- サーバの電源状態の管理
- ロケータ LED のオン/オフの切替え
- サービス プロファイルのサーバへの関連付け
- サービス プロファイルのサーバからの関連解除
- サービス プロファイル テンプレートからのサービス プロファイルの作成。

システム要件

Cisco UCS アドインをインストールする前に、次の最低要件を最低限満たしていることを確認します。

- Windows PowerShell 2.0
- Net Framework 4.0 以降
- System Center 2012 SP1 Virtual Machine Manager または System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager

サポートされる Cisco UCS Manager リリース

Microsoft System Center Virtual Machine Manager 用 Cisco UCS アドインは、Cisco UCS Manager、リリース 2.0 以降と互換性があります。

第 2 章

UCS Cisco アドインのインストール

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- Cisco UCS アドインのインストール，3 ページ

Cisco UCS アドインのインストール

Cisco UCS SCVMM をインストールするには、次の手順にしたがいます。

はじめる前に

SCVMM がインストールされ、使用可能になっている必要があります。

手順

ステップ 1 http://software.cisco.com/download/type.html?mdfid=283850978&ampflowid=25021 にある zip 圧縮フォルダをダウンロードして保存します。

（注） アドインは zip 形式ファイルで用意されており、インストールするために SCVMM にインポートする必要があります。

ステップ 2 SCVMM のインスタンスを開きます。

ステップ 3 [Navigation] ペインで、[Settings] をクリックします。

ステップ 4 ツールバーで、[Import Console Add-in] をクリックします。
[Import Console Add-in Wizard] が表示されます。

ステップ 5 [Browse] をクリックして、zip 形式ファイルが保存されている場所に移動します。

ステップ 6 zip ファイルを選択し、[Open] をクリックします。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Finish] をクリックします。
アドインがインストールされ、ツールバーに Cisco UCS と呼ばれる新しいアイコンが表示されます。

第 3 章

UCS グループの追加と削除

この章は、次の項で構成されています。

- UCS グループの追加, 5 ページ
- UCS グループの削除, 6 ページ

UCS グループの追加

UCS グループを作成して、共通のプロパティを持つ一連のドメインをグループ化できます。 たとえば、場所に基づくグループを作成し、さまざまな場所の UCS ドメインを各グループに追加することができます。 同様に、選択条件に基づくグループを作成し、基準を満たす関連ドメインを追加することができます。 これは論理グループに属するドメインの整理に便利です。 UCS ドメインに属するグループを追加するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] を右クリックします。

ステップ 3 [Add Group] をクリックします。
[Add Group] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Group Name] フィールドにグループ名を入力します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。
選択した名前のグループが [UCS Domains] ノードの下に表示されます。

（注）
- グループ内にはサブグループを追加できます。 サブグループを追加する場合は、サブグループを追加したいグループを右クリックし、前の手順のステップ 3～5 を実行します。 グループ内にはサブグループを 5 つのレベルまで追加できます。
- グループを右クリックして、[Rename UCS Group] を選択すると、グループの名前を変更することができます。
- グループ内に UCS ドメインを追加することができます。

UCS グループの削除

UCS グループを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、削除する UCS グループを右クリックします。

ステップ 3 [Remove UCS Group] をクリックします。
グループ内にサブグループまたはUCSドメインがない場合は、グループが削除されます。 グループ内にサブグループがある場合は、グループを削除するとグループ内のサブグループも削除されることを示す警告メッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。
グループ内に UCS ドメインがある場合は、グループとサブグループ内の UCS ドメインの登録が解除されることを示す別の警告メッセージが表示されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。
削除のために選択されたグループ内のUCSドメインは、切断され登録が解除されます。 次に、選択された UCS グループとそのサブグループが削除されます。

第 4 章

UCS ドメインの追加と削除

この章は、次の項で構成されています。

- UCS ドメインの追加，7 ページ
- UCS ドメインの削除，8 ページ

UCS ドメインの追加

任意のアクセス権限を使用してドメインを登録できます。 ただし管理者としてドメインを登録しない場合は、情報が表示されるだけで、ドメインに対する特定の操作は実行できません。

UCS ドメインを登録するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] を右クリックします。

ステップ 3 [Add UCS Domain] をクリックします。
[Add UCS Domain] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ダイアログボックスで次の詳細を入力します。

- UCS：登録する UCS ドメインのアドレス。
- ユーザ名：UCS ドメインのユーザ名。
- パスワード：UCS ドメインのパスワード。

ステップ 5 [Add] をクリックします。
登録された UCS ドメインが、[UCS Domains] ノードの下に表示されます。 UCS ドメインを追加すると、新しく追加された UCS ドメインで稼働するハイパーバイザ ホストがハイパーバイザ ホスト ノードの下に表示されます。

（注） また、グループ内に UCS ドメインを追加することができます。グループ内に UCS ドメインを追加するには、グループを右クリックし、前の手順のステップ 3 から 5 を実行します。

UCS ドメインの削除

UCS ドメインを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domain] ノードで、削除する UCS ドメインを右クリックします。

ステップ 3 [Remove UCS Domain] をクリックします。

ステップ 4 削除の確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。
選択した UCS ドメインが切断され登録解除されます。

第 5 章

アドインを使用した情報の表示

この章は、次の項で構成されています。

- ハイパーバイザ ホスト ビューへのサーバの詳細の表示，9 ページ
- UCS ブレード サーバの詳細の表示，11 ページ
- UCS ラックマウント サーバの詳細の表示，12 ページ
- サービス プロファイルの詳細の表示，14 ページ
- サービス プロファイル テンプレートの詳細の表示，15 ページ

ハイパーバイザ ホスト ビューへのサーバの詳細の表示

アドインを使用して、ホストが実行されているサーバ（ブレードまたはラックマウント サーバ）のプロパティ、障害情報、ファームウェアの詳細などの詳細を表示することができます。 以下は、サーバの詳細情報を表示する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [Hypervisors] ノードで、サーバに関連付けられたハイパーバイザ ホストを選択します。
ウィンドウの右側のペインに、ホストが実行されているサーバの次の情報が表示されます。

名前	説明
[General] タブ：	
Fault summary	障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。 このセクションの重大度の障害アイコンをクリックして、障害の詳細を表示することができます。

名前	説明
Properties	サーバ ID、UUID、シリアル番号、関連付けられたサービスプロファイルなどのサーバのプロパティが表示されます。 サービス プロファイルがサーバに関連付けられている場合は、サービス プロファイルの場所へのリンクがあります。 リンクをクリックすると、関連付けられたサービスプロファイルのプロパティを表示します。
Status	ホストで実行されているタスクの状態を示します。
[Actions] 領域：	
Associate Service Profile	サービスプロファイルのサーバへの関連付けを有効にします。
Disassociate Service Profile	サービスプロファイルのサーバからの関連解除を有効にします。
Set Desired Power State	サービスプロファイルの電源状態を設定するオプションを提供します。
KVM Console	KVM コンソールの起動を有効にします。
Turn On Locator LED	現在の状態に応じたロケータ LED のオン/オフを有効にします。
[Firmware] タブ	BIOS、CIMC、アダプタ、ストレージデバイスの部品 ID およびファームウェア バージョンなどのファームウェアの詳細を提供します。 サーバのファームウェアの詳細に何らかの変更がある場合は、これらの変更が反映されます。
[Faults] タブ	プロパティ、重大度、障害コードおよびID、説明、影響を受けるオブジェクトなどのサーバ固有の障害の詳細を表示します。 重大度に基づいて障害をフィルタリングするオプションと、[Actions] 領域に UCS の障害を知らせるオプションを提供します。

UCS ブレード サーバの詳細の表示

アドインを使用して、プロパティ、障害情報、ファームウェアの詳細などのサーバの詳細を表示することができます。 以下は、サーバの詳細情報を表示する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。
[Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

ステップ 4 シャーシを選択します。
シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

ステップ 5 詳細を表示するブレードを選択します。
ブレードのプロパティがウィンドウの右側のペインに表示されます。 次のサーバ情報が表示されます。

名前	説明
[General] タブ：	
Fault summary	障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。 このセクションの重大度の障害アイコンをクリックして、障害の詳細を表示することができます。
Properties	シャーシ ID、UUID、シリアル番号、関連付けられたサービス プロファイルなどのサーバのプロパティが表示されます。 サービス プロファイルがブレードに関連付けられている場合は、サービスプロファイルの場所へのリンクがあります。 リンクをクリックすると、関連付けられたサービスプロファイルのプロパティを表示します。
Status	サーバの状態を示します。
[Actions] 領域：	
Set Desired Power State	サービスプロファイルの電源状態を設定するオプションを提供します。

名前	説明
KVM Console	KVM コンソールの起動を有効にします。
Rename Service Profile	サービス プロファイル名の変更を有効にします。
Associate Service Profiles	サービスプロファイルのサーバへの関連付けを有効にします。
Turn On Locator LED	現在の状態に応じたロケータ LED のオン/オフを有効にします。
Disassociate Service Profile	サービスプロファイルのサーバからの関連解除を有効にします。
[Firmware] タブ	BIOS、CIMC、アダプタ、ストレージデバイスの部品 ID およびファームウェア バージョンなどのファームウェアの詳細を提供します。 サーバのファームウェアの詳細に何らかの変更がある場合は、これらの変更が反映されます。
[Faults] タブ	プロパティ、重大度、障害コードおよびID、説明、影響を受けるオブジェクトなどのサーバ固有の障害の詳細を表示します。 重大度に基づいて障害をフィルタリングするオプションと、[Actions] 領域に UCS の障害を知らせるオプションを提供します。

UCS ラックマウント サーバの詳細の表示

アドインを使用して、ホストが実行されているサーバのプロパティ、障害情報、ファームウェアの詳細などの詳細を表示することができます。 以下は、サーバの詳細情報を表示する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mounts] を展開します。

[Rack-Mounts] の下に登録した UCS ラックマウント サーバのリストが表示されます。

ステップ 4 詳細を表示するサーバを選択します。
ラックマウントサーバのプロパティが、ウィンドウの右側のペインに表示されます。次のサーバ情報が表示されます。

名前	説明
[General] タブ：	
Fault summary	障害の重大度に基づいて分類された障害数が表示されます。 このセクションの重大度の障害アイコンをクリックして、障害の詳細を表示することができます。
Properties	サーバ ID、UUID、シリアル番号、関連付けられたサービスプロファイルなどのサーバのプロパティが表示されます。 サービス プロファイルがサーバに関連付けられている場合は、サービス プロファイルの場所へのリンクがあります。 リンクをクリックすると、関連付けられたサービスプロファイルのプロパティを表示します。
Status	サーバの状態を示します。
[Actions] 領域：	
Set Desired Power State	サービスプロファイルの電源状態を設定するオプションを提供します。
KVM Console	KVM コンソールの起動を有効にします。
Rename Service Profile	サービス プロファイル名の変更を有効にします。
Associate Service Profiles	サービスプロファイルのサーバへの関連付けを有効にします。
Turn On Locator LED	現在の状態に応じたロケータ LED のオン/オフを有効にします。
Disassociate Service Profile	サービスプロファイルのサーバからの関連解除を有効にします。

名前	説明
[Firmware] タブ	BIOS、CIMC、アダプタ、ストレージデバイスの部品 ID およびファームウェア バージョンなどのファームウェアの詳細を提供します。 サーバのファームウェアの詳細に何らかの変更がある場合は、これらの変更が反映されます。
[Faults] タブ	プロパティ、重大度、障害コードおよびID、説明、影響を受けるオブジェクトなどのサーバ固有の障害の詳細を表示します。 重大度に基づいて障害をフィルタリングするオプションと、[Actions] 領域に UCS の障害を知らせるオプションを提供します。

サービス プロファイルの詳細の表示

アドインを使用して、プロパティ、障害情報などのサービス プロファイルの詳細を表示することができます。 以下は、サービス プロファイルの詳細を表示する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。

ステップ 4 [Service Profiles] を選択します。
サービスプロファイルのリストと関連情報がウィンドウの右側のペインに表示されます。サーバの列には、サービスプロファイルと関連付けられているサーバへのリンクがリストされます。リンクをクリックしてサーバの詳細を表示します。

ステップ 5 選択したサービス プロファイルをクリックして詳細を表示します。
サービス プロファイルの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。 次のサービス プロファイル情報が表示されます。

名前	説明
[General] タブ：	
Fault summary	障害数および障害の重大度を表示します。

名前	説明
Properties	名前、関連付けられたサーバ、使用されたサービス プロファイル テンプレートなどのサービス プロファイルのプロパティを表示します。
Status	サービス プロファイルの状態を示します。
[Actions] 領域：	
Set Desired Power State	サーバの電源状態を設定するオプションを提供します。
KVM Console	KVM コンソールの起動を有効にします。
Rename Service Profile	サービス プロファイル名の変更を有効にします。
Create a Clone	サービスプロファイル属性を継承することによるサービスプロファイルのクローン作成を有効にします。
Disassociate Service Profile	サービスプロファイルのサーバからの関連解除を有効にします。

サービス プロファイル テンプレートの詳細の表示

アドインを使用して、プロパティおよび障害情報などのサービスプロファイルテンプレートの詳細を表示できます。 以下は、サービス プロファイル テンプレートの詳細を表示する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。

ステップ 4 [Service Profile Templates] を展開して、詳細を表示するサービス プロファイル テンプレートを選択します。
ウィンドウの右側のペインに、次のサービス プロファイル テンプレート情報が表示されます。

名前	説明
[General] タブ：	
Properties	名前、タイプなどのサービス プロファイル テンプレートのプロパティを表示します。
[Actions] 領域：	
Create Service Profile From Templates	サービスプロファイルを作成するテンプレートの使用を有効にします。
Create a Clone	テンプレート属性を継承することによるサービス プロファイル テンプレートのクローンの作成を有効にします。

第 6 章

アドインを使用したアクションの実行

この章は、次の項で構成されています。

- ハイパーバイザ ホスト ビューからのアクションの実行，17 ページ
- UCS サーバ ビューからのアクションの実行，19 ページ
- サービス プロファイル ビューからのアクションの実行，23 ページ
- サービス プロファイル テンプレート ビューからのアクションの実行，25 ページ

ハイパーバイザ ホスト ビューからのアクションの実行

ハイパーバイザ ビューを使用して、サーバで一連のアクションを実行することができます。次のアクションが実行可能です。

サービス プロファイルの関連解除

以下は、サービス プロファイルをサーバから関連解除する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [Hypervisor] ノードで、サービス プロファイルを関連解除したいサーバを選択します。
ハイパーバイザ ホストの詳細が、ウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 3 [Actions] 領域で [Disassociate Service Profile] をクリックします。

ステップ 4 確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。
サービス プロファイルがサーバから関連解除されます。

電源状態の設定

以下は、サーバの電源状態を設定する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [Hypervisor] ノードで、電源状態を設定するサーバを選択します。
ハイパーバイザ ホストの詳細が、ウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Set Desired Power State] をクリックします。

ステップ 4 [Set Power State] ダイアログボックスで、[Up] または [Down] を選択します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。
選択に応じて、サーバの電源状態が設定されます。

KVM コンソールの起動

以下は、サーバの KVM コンソールを起動する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [Hypervisor] ノードで、KVM コンソールを起動したいサーバを選択します。
ハイパーバイザ ホストの詳細が、ウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Launch KVM Console] をクリックします。

KVM コンソールが起動します。

LED ロケータの電源投入

以下は、サーバの LED ロケータをオンにする手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [Hypervisor] ノードで、ロケータ LED 状態を変更するサーバを選択します。

ハイパーバイザ ホストの詳細が、ウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Turn On Locator LED] をクリックします。
Successfully issued the turn on locator LED コマンド メッセージが表示されます。 SCVMM での LED の新しい状態の通知の受信に遅延が発生することがあります。

ステップ 4 [OK] をクリックします。
LED の状態が変更されます。

（注） オンの状態のロケータ LED をオフにする場合は、上記の同じ手順を実行してオフにします。

UCS サーバ ビューからのアクションの実行

アドインを使用して、UCSブレードおよびラックマウント サーバに対する一連のアクションを実行することができます。 次のアクションが実行可能です。

サービス プロファイルの関連付け

以下は、サービス プロファイルをサーバに関連付ける手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mounts] を展開します。
ブレード サーバの場合：

- [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。

  [Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

- シャーシを選択します。

  シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

- サービス プロファイルを関連付けるブレードを選択します。

  ブレード サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 4 サービス プロファイルを関連付けるラック サーバを選択します。
サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Associate Service Profile] をクリックします。

[Associate Service Profile] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 サービス プロファイルで、[Available Service Profiles] または [All Service Profile] を選択します。
選択に応じたサービス プロファイルのリストが表示されます。

ステップ 7 関連付けるサービス プロファイルを選択します。

ステップ 8 [OK] をクリックします。
選択したサービス プロファイルがサーバに関連付けられます。

サービス プロファイルの関連解除

以下は、サービス プロファイルをサーバから関連解除する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mounts] を展開します。
ブレード サーバの場合：

- [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。

  [Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

- シャーシを選択します。

  シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

- サービス プロファイルを関連付けるブレードを選択します。

  ブレード サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 4 サービス プロファイルを関連解除するラック サーバを選択します。
サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Disassociate Service Profile] をクリックします。

ステップ 6 確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。
サービス プロファイルがサーバから関連解除されます。

電源状態の設定

以下は、サーバの電源状態を設定する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mount] を展開します。
ブレード サーバの場合：

- [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。

  [Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

- シャーシを選択します。

  シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

- サービス プロファイルを関連付けるブレードを選択します。

  ブレード サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 4 電源状態を設定するラック サーバを選択します。
サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Set Desired Power State] をクリックします。

ステップ 6 [Set Power State] ダイアログボックスで、[Up] または [Down] を選択します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。
選択に応じて、サーバの電源状態が設定されます。

KVM コンソールの起動

以下は、サーバの KVM コンソールを起動する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mounts] を展開します。
ブレード サーバの場合：

- [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。

  [Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

- シャーシを選択します。

シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

- サービス プロファイルを関連付けるブレードを選択します。

  ブレード サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 4 KVM コンソールを起動したいラック サーバを選択します。
サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Launch KVM Console] をクリックします。

KVM コンソールが起動します。

LED ロケータのオン/オフ

以下は、サーバ LED ロケータをオン/オフする手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Equipment] を展開し、次に [Rack-Mounts] を展開します。
ブレード サーバの場合：

- [Equipment] を展開し、次に [Chassis] を展開します。

  [Chassis] の下にシャーシのリストが表示されます。

- シャーシを選択します。

  シャーシのブレードサーバのリストが、左側のペインのシャーシの下に表示されます。 ウィンドウの右側のペインにはブレード サーバのリストが表示されます。

- サービス プロファイルを関連付けるブレードを選択します。

  ブレード サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 4 ロケータ LED の状態を変更するラック サーバを選択します。
サーバの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Turn On Locator LED] をクリックします。
Successfully issued the turn off locator LED コマンド メッセージが表示されます。 SCVMM での LED の新しい状態の通知の受信に遅延が発生することがあります。

（注） [Turn on Locator LED] は切り替えボタンであり、現在の状態に応じて LED のオン/オフ状態を変更します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

LED の状態が変更されます。

（注） オンの状態のロケータ LED をオフにする場合は、上記の同じ手順を実行してオフにします。

サービス プロファイル ビューからのアクションの実行

サービス プロファイル ビューからの一連のアクションを実行できます。 次のアクションが実行可能です。

電源状態の設定

以下は、サービス プロファイルの電源状態の設定手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。
ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。
ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。
ステップ 4 電源状態を設定するサービス プロファイルを選択します。
サービス プロファイルの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。
ステップ 5 [Actions] 領域で、[Set Desired Power State] をクリックします。
ステップ 6 [Set Power State] ダイアログボックスで、[Up] または [Down] を選択します。
ステップ 7 [OK] をクリックします。
選択に応じて、サービス プロファイルの電源状態が設定されます。

KVM コンソールの起動

以下は、サーバの KVM コンソールを起動する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。
ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。
ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。
ステップ 4 関連付けられたサーバの KVM コンソールを起動したいサービス プロファイルを選択します。

サービス プロファイルの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Launch KVM Console] をクリックします。

これで、サービス プロファイルに関連付けられたサーバの KVM コンソールが起動します。

サービス プロファイルの名前の変更

以下は、サービス プロファイルの名前を変更する手順です。

（注） サービス プロファイルの名前の変更は、Cisco UCS 2.1 リリース以降でのみサポートされています。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。
ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。
ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。
ステップ 4 名前を変更するサービス プロファイルを選択します。
ステップ 5 [Rename Service Profile] をクリックします。
[Rename Service Profile] ダイアログボックスが表示されます。
ステップ 6 名前を入力して、[OK] をクリックします。
選択したプロファイル名が変更されます。

サービス プロファイルのクローンの作成

以下は、サービス プロファイルのクローンを作成する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。
ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。
ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。
ステップ 4 [Actions] 領域で、[Create a Clone] をクリックします。

[Clone Service Profile] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 各フィールドに org のクローンと宛先の名前を入力します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。
サービス プロファイルのクローンが、指定した org 先で作成されます。

サービス プロファイルの関連解除

以下は、サービス プロファイルをサーバから関連解除する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。

ステップ 4 サーバから関連解除するサービス プロファイルを選択します。
サービス プロファイルの詳細がウィンドウの右側のペインに表示されます。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Disassociate Service Profile] をクリックします。

ステップ 6 確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。
サービス プロファイルがサーバから関連解除されます。

サービス プロファイル テンプレート ビューからのアクションの実行

サービス プロファイル テンプレート ビューで一連のアクションを実行することができます。 次のアクションが実行可能です。

テンプレートからのサービス プロファイルの作成

以下は、サービス プロファイル テンプレートを使用してサービス プロファイルの作成を設定する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。

ステップ 4 [Service Profile Templates] を展開して、サービス プロファイルを作成するサービス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Create Service Profiles From Template] をクリックします。
[Create Service Profile Template] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 各フィールドに名前と org 先を入力します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。
サービス プロファイル テンプレートが、指定した org 宛先指定に作成されます。

サービス プロファイル テンプレートのクローンの作成

以下は、サービス プロファイル テンプレートのクローンを作成する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 [UCS Domains] ノードで、UCS ドメインを展開します。

ステップ 3 [Orgs] を展開し、次に [root] を展開します。

ステップ 4 [Service Profile Templates] を展開して、クローンを作成するサービス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Create a Clone] をクリックします。
[Clone Service Profile] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 各フィールドにクローンと org 先の名前を入力します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。
指定した org 先にサービス プロファイルのクローンが作成されます。

第 7 章

Cisco UCS アドインの設定とトラブルシューティング

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- Cisco UCS アドイン設定オプションの使用，27 ページ

Cisco UCS アドイン設定オプションの使用

アドインの設定オプションを使用してパラメータを設定し、マシンにエラー ログを生成して保存することができます。 これらのログは、問題のトラブルシューティングに使用する情報を提供します。 以下は、パラメータを設定してログを保存する手順です。

手順

ステップ 1 ツールバーで [Cisco UCS] をクリックします。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[Settings] をクリックします。
[Settings] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [Refresh Timer Interval] フィールドに設定するリフレッシュ間隔を入力します。
この間隔はアドインの選択したビューの情報の更新頻度を制御します。

ステップ 4 [Logging Mode] ドロップダウン リストからログ ファイルを保存するオプションを選択します。

ステップ 5 [Log File Size (1-100)] フィールドに、エラー ログのサイズ設定のための数字を入力します。
これはログ ファイルのサイズです。 ログが設定されたファイルのサイズを超えると、設定したサイズのファイルが複数生成されます。

ステップ 6 [Log File Path] はログが保存されるパスを示します。
ログ パラメータが設定されると、[Log File Path] で指定した場所にログが保存されます。

トラブルシューティング

アドインで使用可能な設定オプションを使用してログパラメータを設定すると、[Log File Path] で指定した場所にログが保存されます。 問題のトラブルシューティイングのためのサポートが必要な場合は、zip 形式のログ ファイルを ucs-scvmm@cisco.com にメールで送信します。

一般的なエラーと解決方法

アドインのインストール中に dll ファイルの欠落の問題が発生した場合は、マシンの `..\ Program Files\Microsoft System Center 2012\Virtual Machine Manager\bin\AddInPipeline` フォルダ（VMM Console を実行しているフォルダ）の読み込み/書き込み許可を確認すれば解決することができます。